2018年のテレビとインターネットの動き

倉又 俊夫 ●日本放送協会 放送総局デジタルセンター

テレビがインターネットを活用し始めてまもなく四半世紀。2018年のスポーツ国際大会における映像配信や新たなVODプラットフォーム誕生など、テレビ局が試みる新しいビジネスの形が見えてくる。

テレビ局がインターネットを活用し始めて四半世紀が経とうとしている。その間に、テキストと写真が中心のインターネットから、動画を中心としたインターネットへと移行してきており、今それがさらに加速されようとしている。しかし、これだけの年数を経ながらもまだ、テレビ局がインターネットを十分に活用しているかと問われれば、残念ながら否と答えるしかないのも事実である。

2019年には平成も終わる。平成という時代を見ると、テレビ局はインターネットの可能性を感じながらも、既存のビジネスモデルを優先し、事実上、自分たちをテレビというドメインの中に閉じ込めることになってしまったのではないか。同時配信の議論がこれまで以上に深まる中で、何をどこまで実現できるのか。本稿では、テレビ局の話を中心に、ネット専業企業などの動きなどにも触れたい。

■ピョンチャン冬季五輪での配信実験

2018年を振り返ると、スポーツの世界的な大会が行われた年であり、このタイミングでさまざまなインターネット展開が行われた。

まず、2月に韓国で開催されたピョンチャン冬季五輪（2月9日～25日開催）である。この冬季五輪に際し、NHKでは、五輪の理解増進にかかわる映像配信に加えて、来たる同時配信時代を目指した一連の配信実験を行った。

ピョンチャン冬季五輪でNHKが実施した主なインターネット展開は次のとおりである。

①ネット同時配信実験
・試験的提供A
②動画配信サービス
・ライブ配信、見逃し配信、ハイライト動画配信
③SHV（スーパーハイビジョン）配信
・試験的提供C
④2020年の東京五輪に向けたトライアル
・ユニバーサルサービス
・ロボット実況

このうち、ピョンチャン五輪の開閉会式や各種競技について、総合テレビ・Eテレの番組を、放送と同時にインターネットに毎日配信（試験的提供A）した結果は以下のとおりである。

・視聴者数　144.1万
・配信時間　235時間47分（ピョンチャン冬季五輪以外の番組や、契約の関係で配信が出来なかった時間の計40時間4分を含む）

視聴者数の多かった配信ベスト3は以下であった（資料1-1-1、資料1-1-2）。

・1位　2月17日「フィギュアスケート　男子シ

インターネット白書／ ©1996-2019 Impress R&D

ングルフリー」、605万
・2位　2月21日「フィギュアスケート　女子シングルフリー」、23.9万
・3位　2月24日「カーリング女子準決勝　日本対　韓国」、21.4万

ちなみに、2016年のリオ五輪で、同様の同時配信で最も視聴者数が多かった配信は、「陸上（男子400ｍリレー決勝ほか）」の14.8万だったことから、時差の違いはあるものの、今回大きく視聴者数を伸ばしたことがわかる。また五輪2連覇を果たした羽生結弦選手をはじめ、フィギュアスケートの人気の高さがうかがえる。

テレビで生放送していない競技の映像もインターネットの動画配信で提供した。これは、現地から送られてくるライブ映像（音声は「現地会場音」と「会場音＋英語実況」の2チャンネル）をそのままストリーミング配信したもので、最大9チャンネルで同時配信した。このライブ配信は、合計で209本、512時間27分実施した。

これに加えて、ライブ配信を事後に視聴できるサービスとして、見逃し配信も、298本、716時間15分実施した。

さらに、各競技のハイライト動画を312本制作し、NHKオンライン以外に、YouTubeのNHKチャンネルやTwitterのNHKスポーツアカウントでも発信した。

YouTubeとTwitterで視聴回数が多かったのは、どちらも羽生結弦選手の映像で、それぞれ332.8万回（YouTube）、410.2万回（Twitter）だった。期間中のYouTubeのNHKチャンネルの総再生回数は4481万回に上り、Twitterのnhk_sportsアカウントの総再生回数は3129万回となった。なお、NHKのピョンチャン五輪設サイト／アプリでの再生回数は928万回となった。

今回のピョンチャン五輪で初めて行われたのが、「試験的提供C」である。これは、スーパーハイビジョンの試験放送の一部を4K画質でインターネット同時配信したもので、16本、47時間17分実施された。

このほか、2020年を目指したトライアルの意味で、ロボット実況も、17本、32時間7分実施した。これは、大会の主催者が配信するリアルタイムの競技データから即時に実況内容の文章を作成し、配信される映像に合わせて合成音声で読み上げるサービスで、アイスホッケー、カーリング、リュージュ、ボブスレー、スケルトンで実施した。

民放もピョンチャン五輪のライブストリーミングやハイライト動画などをgorin.jpで提供したが、今回は、それを民放公式テレビポータル「TVer（ティーバー）」のサイトやアプリでも視聴できるようにした。

■FIFAワールドカップロシア大会におけるNHK・民放のそれぞれの試み

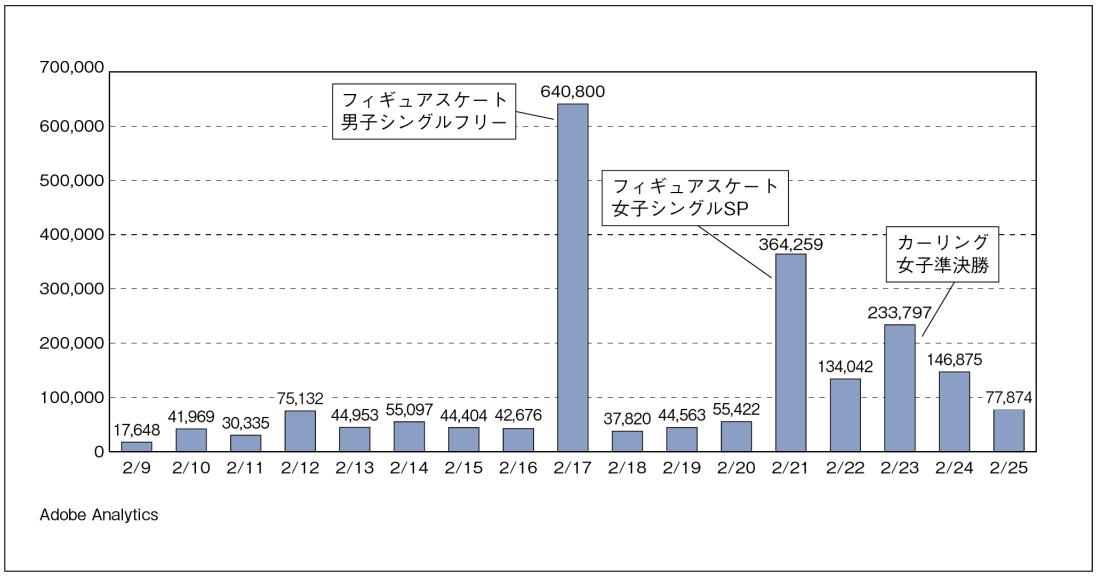
2018年に行われたもう1つの大きなスポーツイベントは、FIFAワールドカップサッカーロシア大会（6月15日〜7月16日）である。この大会でも、さまざまなインターネット施策を実施した。以下はNHKが実施した主な施策である。

・放送同時配信（試験的提供A）
・ライブ配信
・見逃し配信
・ハイライト動画

NHKが放送権を保有するのは全64試合のうち32試合だが、放送同時配信（試験的提供A）では、このうち24試合を同時配信した。これは日本語音声で提供された。また、ライブ配信では、NHKが放送権を持つ32試合すべてについて、放送とは別角度の映像や複数カメラの選択ができるようにした。こちらは英語音声による実況であった。このほかに、2分程度の試合ハイライト動画を全64試合分制作し、NHKの特設サイトのほか、

インターネット白書／©1996-2019 Impress R&D

資料 1-1-1　NHK のピョンチャン五輪　同時配信視聴者数の推移（日別）



出典：NHK「テレビ放送の同時配信の試験的な提供（試験的提供Ａ）の試験結果について（2018 年 5 月 11 日）」公表資料より筆者作成

資料 1-1-2　NHK のピョンチャン五輪　同時配信視聴者数ランキング（競技別）

順位	日程	競技・種目		視聴者数	最大同時アクセス
1	2/17	フィギュアスケート	男子シングル・フリー	605,414	251,909
2	2/21	フィギュアスケート	女子シングル・SP	239,197	106,046
3	2/23	カーリング	女子準決勝	214,060	66,691
4	2/24	カーリング	女子 3 位決定戦	124,309	52,385
5	2/21	カーリング	女子予選	86,223	26,447
6	2/21	カーリング	男子予選	76,357	27,589
7	2/22	スノーボード	女子ビッグエア決勝	68,774	31,866
8	2/25	閉会式		42,470	12,429
9	2/17	カーリング	女子予選	37,212	12,253
10	2/22	ノルディック複合	団体	35,677	14,249

Adobe Analytics

出典：NHK「テレビ放送の同時配信の試験的な提供（試験的提供Ａ）の試験結果について（2018 年 5 月 11 日）」公表資料より筆者作成

YouTube の NHK チャンネルでも提供した。

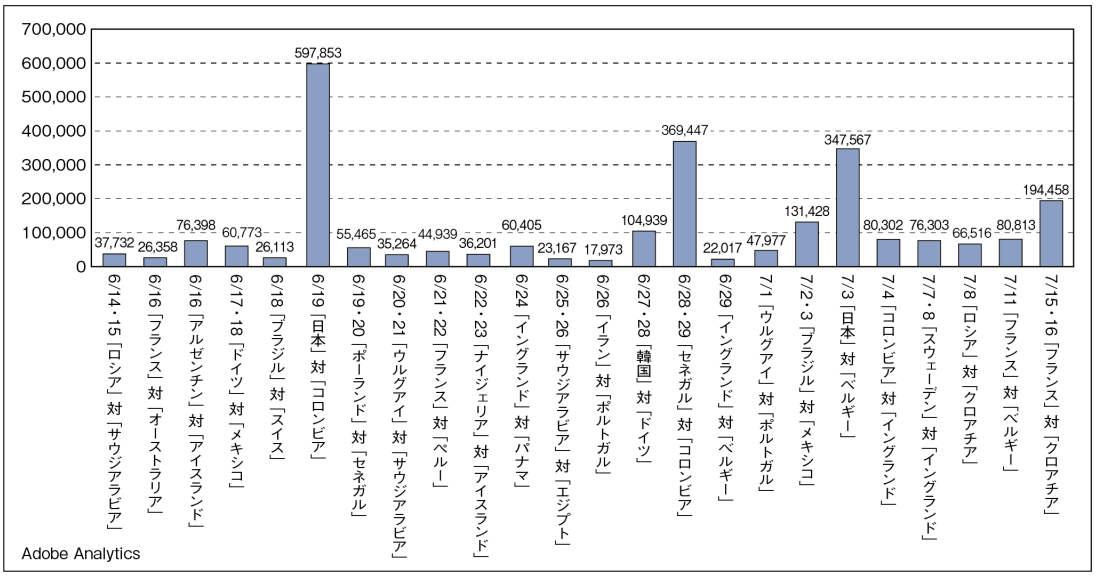
同時配信を中心にデータを振り返っておきたい。大会期間中の同時配信の視聴者数（ユニークユーザー）は、 191.9 万だった。試合ごとの視聴者数は、6 月 19 日の「日本対コロンビア戦」が最も多く 59.8 万、次いで 6 月 28 日・29 日の「セネガル対コロンビア戦」で 36.9 万、7 月 3 日の「日本対ベルギー戦」で 34.8 万であった（資料 1-1-3）。

また、最大同時アクセス数が最も多かったのは、6 月 28 日・29 日の「セネガル対コロンビア戦」で 23.8 万、次いで 6 月 19 日の「日本対コロンビア戦」が 21.9 万だった（資料 1-1-4）。

FIFA ワールドカップで特筆すべきは、スマホ

インターネット白書／ ©1996-2019 Impress R&D

資料1-1-3　NHKの「FIFAワールドカップロシア大会　同時配信アクセスの推移」（試合ごと）



出典：NHK「テレビ放送の同時配信の試験的な提供（試験的提供A）の試験結果について（20018年9月25日）」より筆者作成

資料1-1-4　FIFAワールドカップロシア大会　同時配信アクセスランキング

順位	日程	対戦カード		視聴者数	最大同時アクセス
1	6/19	「日本」対「コロンビア」	1次リーグ・グループH	597,853	218,735
2	6/28・29	「セネガル」対「コロンビア」	1次リーグ・グループH	369,447	237,628
3	7/3	「日本」対「ベルギー」	決勝T・1回戦	347,567	192,728
4	7/15・16	「フランス」対「クロアチア」	決勝	194,458	84,700
5	7/2・3	「ブラジル」対「メキシコ」	決勝T・1回戦	131,428	52,887
6	6/27・28	「韓国」対「ドイツ」	1次リーグ・グループF	104,939	54,370
7	7/11	「フランス」対「ベルギー」	準決勝	80,813	44,775
8	7/4	「コロンビア」対「イングランド」	決勝T・1回戦	80,302	46,990
9	6/16	「アルゼンチン」対「アイスランド」	1次リーグ・グループD	76,398	27,883
10	7/7・8	「スウェーデン」対「イングランド」	準々決勝	76,303	28,749

Adobe Analytics

出典：NHK「テレビ放送の同時配信の試験的な提供（試験的提供A）の試験結果について（20018年9月25日）」公表資料より筆者作成

アプリである。NHKがFIFAと協業して制作したこのアプリでは、32試合をライブで視聴できるだけでなく、複数カメラアングルを選択できるなど、テレビ放送では実現できない機能を備えていたことから、ユーザーより好評を博し、「神アプリ」と呼ばれた。ダウンロード数は100万を超え、スポーツイベントにおけるスマホアプリの新しいあり方を提示したといえよう。

民放もワールドカップサッカーには力を入れ、いつもは見逃しサービスを行っているTVerのサイトとアプリで、民放が放送権を持つ32の試合の放送同時配信を行った。これは、実証実験という側面も持っており、国際的なスポーツイベントで予想される大規模アクセスのもとでの、通信シ

インターネット白書／ ©1996-2019 Impress R&D

ステムやサービスに与える影響の整理、配信技術や運用面での課題の明確化と方策案の検討のために実施された。同時に、視聴者の利用動向検証やアンケートなどを通して、同時配信や配信機能のニーズについても調査を行った。

視聴の状況としては、最大視聴人数は、6月28日に実施された「日本対ポーランド戦」の35.9万で、最大同時接続数は、同じく「日本対ポーランド戦」の18.1万だった（「放送コンテンツ配信協議会」資料などによる）。

■TVerさらに拡大

在京民放5社（日本テレビ、テレビ朝日、TBSテレビ、テレビ東京、フジテレビ）が運営するTVerが、2018年10月でサービス開始から3年を迎え、累計のアプリダウンロード数が1500万を突破したと発表した。7〜9月期平均MAU（月間アクティブユーザー）は過去最高の599万となり、テレビのキャッチアップ市場が大きく伸長していることを示した。2018年は、前述したように、ピョンチャン冬季五輪もFIFAワールドカップでもTVerでの試合の閲覧を可能にして支持を広げたが、今後、さらにコンテンツの充実が図れるかどうかが注目される。

■民放5社、同時配信の技術実証を合同で実施

9月26日、在京民放5社は、総務省が野村総合研究所に委託した調査研究において、各局が地上波で放送する番組をインターネット同時配信する技術実証を合同で実施すると発表した。この実証実験では、視聴者の利便性向上や放送の価値の維持・向上を目的に、5社それぞれが放送番組を同時配信し技術的な検証を行った。

配信実験番組は以下のとおり（一部予定を含む）である。

・日本テレビ「レスリング全日本選手権」12/23放送
・テレビ朝日「女子サッカーなでしこジャパン国際親善試合」11/11放送
・TBSテレビ「2018世界バレー女子大会」9/29〜10/20放送
・テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」「青春高校3年C組」2019/1/21〜2/1放送分
・フジテレビ「みんなのKEIBA」11/25、12/23放送

■Paraviのサービススタート

日本のSVOD市場は、すでにNetflixやHulu、FODなどが進出し激戦区となっている。2018年4月1日、TBS、テレビ東京、WOWOW、日本経済新聞、電通、博報堂DYメディアパートナーズの6社による、「Paravi（パラビ）」がサービスを開始した（『インターネット白書2018』のこの記事でも、サービスがアナウンスされた旨を記した）。月額925円の定額制サービスで、「毎日、新作コンテンツ」を合言葉に、TBSとテレビ東京の新作ドラマ、バラエティ、アニメ、経済ニュース、ドキュメンタリーなどのキャッチアップ配信（放送終了後の見逃し配信）のほか、Paraviでしか見られないオリジナル作品を制作、提供している。TBSとテレビ東京を含む地上波テレビ連合のSVODとして、どこまで加入者数を伸ばすことができるのか注目される。

■アマゾン、プライムビデオチャンネル開始

アマゾンは、2018年6月14日より、Amazonプライムビデオチャンネルを日本で提供開始した。プライムビデオチャンネルは、Amazonプライム会員が、多くの有料チャンネルから観たいチャンネルだけ選んで登録し、コンテンツを視聴

インターネット白書／©1996-2019 Impress R&D

できる、プライム会員向けの新しいサービスである。プライムビデオチャンネルは、複数のチャンネルがセットになっているパッケージではなく、1チャンネルから申し込めるため、観たいチャンネルだけを手軽に楽しむことができる。視聴可能なのは、ストリーミング配信で初めて提供されるアジアドラマチャンネルのほか、J SPORTS、時代劇専門チャンネルNET、釣りビジョン セレクト、日経CNBC プラス、HISTORY、BBCワールドニュースなどを含む20チャンネルとなっている。

すでに一定のユーザー数を保有するAmazonプライムビデオとしては、新しい領域であるが、CSチャンネルの置き換え以上の価値をどう提供していくのか、課題だろう。

■ヤフー、ニュースページでBBCニュースのライブ配信を開始

ヤフーは、2018年7月18日より、Yahoo!ニュースで、イギリスBBCニュースのチャンネル配信を開始した。配信は、月曜〜金曜の朝7時から16時までで、番組にはすべて日本語同時通訳、もしくは日本語字幕が付く。ヤフーでは、日テレNEWS24、TBSニュースバードに次いで3チャンネル目となり、外国チャンネルは初めてである。ヤフーとしては、本格的なネット動画時代に備えてYahoo!ニュースにも内外の報道機関のニュースチャンネルを揃えたということだが、CS放送のチャンネルをホームページでも見られる以上の価値をどのように付け加えていくのか、手腕が注目される。

■TikTokの大躍進

2018年は、インターネット全体としては、ショート動画が人気だったといえるのではないか。特にダンス動画に特化したアプリ「TikTok」が若い世代で流行り、その人気が注目され、テレビ局やアーティストもTikTokの活用が続いた。ドラマ「獣になれない私たち」では劇中の登場人物が提供CM内でTikTokを利用したほか、音楽番組などでも活用された。大晦日に放送された「第69回NHK紅白歌合戦」では、「いきものがかり」が歌う「じょいふる」とTikTokがコラボ。「#紅白でじょいふろう」をつけてユーザーが投稿した動画の中からピックアップされたものは、生放送のステージの演出でも使用された。アップルが発表した年間ランキングでも、TikTokが無料アプリの第1位となった。

ショート動画の分野では、日本テレビが「テレビバ」という新サービスを10月に開始、NHKも2017年3月から「1.5ch」というショート動画サイトを展開しており、番組をさまざまな形でショート動画に作り直している。このうち、「NHKスペシャル　人類誕生」のCGで構成されたショート動画は、8250万回再生された。

■ネット配信専業と通信キャリアの新しい動き

本稿では、主にテレビ局のインターネット動画の新しい施策について取り上げているが、今回は、ネット配信専業のネットフリックスと通信キャリアの動きについて触れたい。

2018年5月29日に、ネットフリックスとKDDIは業務提携を結び、Netflixのコンテンツ利用料金とauのスマートフォンの通信料金をセットした新しい料金プランを発表した。月額5500円から利用できるこの新料金プランは、同年夏から提供開始された。

また、8月には、ソフトバンクが、スマホの新料金サービスとして、対象の動画サービスやSNSが使い放題となるプランを発表した。これは、毎月50GBまで利用できるデータ容量に加えて、YouTubeやAbemaTV、TVer、GYAO!、Hulu、

インターネット白書／ ©1996-2019 Impress R&D

LINE、Instagram、Facebookの動画サービスやSNSの利用容量がカウントされず使い放題となる料金プランである。事実上のゼロレーティング施策の導入となった。

こうした動きには、通信キャリアがネット配信会社と協業することで、さらなる動画利用を促すとともに、有料会員サービスへの加入を促進するという側面もあるだろう。ただ、ネット中立性の原則という観点からは、このようなゼロレーティング施策が大手キャリアから登場することについては、さまざまな意見や見解があることは付記しておきたい。

■WOWOWの同時配信

有料衛星放送のWOWOWは、BS放送の3チャンネル「WOWOWプライム」「WOWOWライブ」「WOWOWシネマ」のネット同時配信サービスを2018年12月1日より本格的に開始した（これに先駆け10月1日からトライアルサービスを行っていた）。WOWOWとしては、これまで有料会員がオンディマンド配信を視聴できる「メンバーズオンディマンド」を実施してきたが、これに3チャンネルのネット同時配信のサービスが加わることになる。月額料金の2300円（税別）は据え置きとなる。また、WOWOWが設立メンバーの1社であるParaviでは、パソコン、スマートフォン、タブレットを持っていればネット上でWOWOWに加入し、すぐに3チャンネルのネット同時配信が見られるサービスも開始した。

多様なライフスタイルが広がるなかで、テレビ受像機を前提とするサービスから、受像機がなくてもWOWOWの番組を見られるように踏み出したという意味では、テレビ局自らが、テレビ中心のビジネスモデルから脱却を試みているといえよう。

■テレビ65年、NHK×日テレコラボデーでのネット配信

NHKと日テレは、1953年にそれぞれ開始したテレビ放送の65周年を記念して、2018年9月22日に特別番組「NHK×日テレ同時生放送！ テレビ65年 スポーツのチカラ」を放送した。同じ時間帯に、同じスタジオで、両局のセットを隣合わせに設置し、出演者が自在にそれぞれのセットを行き来できる仕掛けの「同時生放送」だった。

このほかにも、コラボデーと題して、朝から夜までさまざまな番組でもコラボレーションを行った。さらに、テレビ放送に伴走するように、NHKと日テレのスタッフが共同でライブストリーミング番組「これもコラボだ！みんなでチャレンジ65」をYouTubeのNHKチャンネルと日テレチャンネルほかで配信した。両局のアナウンサーだけでなく、NHKキャラクターの「どーもくん」と日テレ天気予報キャラクターの「そらジロー」が共演したほか、NHKのAIリポーター「ヨミ子」と日テレのアンドロイドアナウンサー「アオイエリカ」も共演を果たし、合計6時間のライブストリーミングオリジナル番組となった。

■NHKの同時配信の強化の動き

筆者が本テーマの執筆担当になってから必ず触れてきた話題だが、2018年12月時点におけるNHKの常時同時配信を目指す動きについて簡潔に触れておきたい。

NHKは、2020年に地上波放送の常時同時配信を実施したい旨を、これまでにも総務省や民放連等に表明してきたが、各方面から懸念が示されたり、条件が付けられたりしてきた。2018年11月には、NHKは条件の1つとされた受信料の値下げについても表明し、現状としては、一歩ずつ課題を解決している段階といえよう。11月末の一部の報道では、2019年の通常国会に放送法改正案

インターネット白書／ ©1996-2019 Impress R&D

が提出される動きだとされているが、現時点ではまだ確定していることはない。

いずれにせよ、そう遠くない将来、地上波放送でも常時同時配信時代が来ることは間違いないだろう。そのなかで、テレビがどのようなポジションになっていくのか。2019年も注目していきたい。

インターネット白書／©1996-2019 Impress R&D

Internet White Paper ARCHIVES
インターネット白書
ARCHIVES
1996,1997,1998,1999,2000....

［インターネット白書ARCHIVES］ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2019年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

https://IWParchives.jp/

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

●記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。

●収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。

●著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。

●このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。

●収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。

●オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先 | 株式会社インプレスR&D | ✉ iwp-info@impress.co.jp

©1996-2019 Impress R&D